

居宅介護支援 ケアプランセンター 足原のぞみ苑
令和5年度事業報告

1 概況報告

利用者の状況等

利用の状況については4月時点で104件、3月時点で102件と2件の減少となっている。

新規受け入れは月平均2.75人、終了は月平均3.08人となっており、件数は減少傾向となった。

昨年度の同時期が107件で5件の減少となっている。

紹介元は地域50%、包括26%、利用者家族8%、望玄荘や移管が数%となっている。

終了理由は入院、入所、逝去による移管となっている。

職員の状況等

介護支援専門員 3名(管理者含む) 増減なし

2 事業報告

① 個人の尊厳の保持と自立支援

(取り組み)

- ・利用者、利用者家族に寄り添い可能な限り望む生活を送れる様、支援を行う

(評価)

- ・在宅が困難になってきた利用者であっても本人が在宅を希望すればすぐに施設入所を進めるのではなく可能な限り医療、行政等のサービスを活用し支援する事が出来ている。

② 利用者の確保

(取り組み)

- ・事業所担当件数月110件、稼働率80%以上を目指す。

(評価)

- ・担当件数は月平均103件。稼働率については86.1%となった。

③ 連携の強化

(取り組み)

- ・医療、行政、地域との連携強化を図っていく

(評価)

- ・医療との連携については開業医であればケアマネタイムを活用や受診に同行し直接医師と面会し顔の見える機会を持った。病院では主に医療連携室を

通じ生活状況の報告や退院前カンファレンスへの参加で情報収集する事が出来た。

- ・行政との連携については特に虐待が疑われるケース等は早い段階から地域包括支援センターに依頼し同行訪問等を行い情報共有、当事業所他部門にも協力してもらい事態の收拾を図る事が出来た。包括支援センターからの緊急受け入れ要請にも応える事が出来た。

- ・足原カフェへの定期参加や街美化活動、夜間パトロール等に参加し顔馴染みの関係を作る事が出来た。

④ 介護支援専門員としての知識、資質の向上とメンタルケア

(取り組み)

- ・各種研修への参加、CM が一人で抱え込まない様、何時でも事業所内で話せる体制を作った。

(評価)

- ・外部研修への定期参加し事業所内で周知する事で制度の最新情報等を把握する事が出来た。

- ・今期は新人職員の入職も有り引継ぎを2ヶ月に渡り行い、随時事業所内で話合い、相談が出来る雰囲気づくりを行う事でバーンアウト、離職を防ぐ事が出来た。

⑤ 特定事業所加算Ⅲの維持

(評価)

- ・算定要件である週1回の定例会議、24時間電話対応、ケアプランいわさきとの合同研修(R5/11月開催)、包括支援センターからの緊急対応の受け入れも行う事が出来ており特定事業所加算Ⅲの算定継続が出来た。

3 次年度の目標

- ・昨年度に比べ事業所受け持ち件数の若干の減少有り。次年度からはCMの受け持ち件数の増加もある為、関係機関への営業を行うと共に個々のCMの業務負担については注意していく。
- ・新規紹介元割合の半数が地域からとなっている事から継続して地域活動への参加を行い顔の見える関係作りを構築していく。また、地域活動の活動範囲の追加も検討していく。